

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(平成30年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

目 次

I	学校概要	1
II	教育目標	
	(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神	2
	(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標	2
	(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針	2
III	重点目標の達成及び改善方策	
	(1) 学習指導	3
	(2) 生活指導	4
	(3) 進路指導	5
	(4) 生徒相談	6
	(5) 生徒募集	7
	(6) 総 務	7
	(7) 校 務	8
	(8) 事 務	9
IV	本年度の具体的な取り組み	10
V	来年度の具体的な取り組み予定	10
VI	重点目標の達成に対する考察	10
VII	生徒アンケート結果の総合考察	10
VIII	保護者アンケート結果の総合考察	11
IX	今後の方向性	11
	生徒アンケート 集計結果	
	保護者アンケート 集計結果	

I 学校の概要

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒444-3523

愛知県岡崎市藤川町西川向1-20

TEL: 0564-48-5230 FAX: 0564-48-8775

ホームページ: <http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。

昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。

昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。

平成 3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。

平成 7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。

平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。

平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって、専門学校の単位を本校の単位として認定、年回3回のスクーリングを本校で行い高等学校卒業資格を与えることができる。

本校単位制普通科には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。また、午後コースは少人数制授業（10人前後）を行っている。通学型通信制で大学生のように自分で選んだ授業を受講し、3年間で74単位取得することで通信制の卒業資格を得ることができる。

(6) 技能連携校

名古屋情報専門学校 高等課程

あいちビジネス専門学校 高等課程

西尾高等家政専門学校 高等課程

名古屋調理師専門学校

専修学校東洋調理技術学院
 豊橋ファッション・ビジネス専門学校
 大岡学園ファッション文化専門学校

(7) 技能連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
大岡学園ファッション文化専門学校	普通科

※名古屋情報専門学校は平成31年度より商業科より普通科へ変更する予定

(8) 生徒数及び教職員数（平成30年5月1日現在）

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	16	17	123	84	254	28	522
2年生	40	39	119	75	226	26	525
3年生	81	52	113	63	180	22	511
計	137	108	355	222	660	76	1558

教職員数(15名)兼務を含む

校長(兼務) 教頭 教員7名 兼任教員1名 精神保健福祉士1名(兼任)
 非常勤講師2名 事務職員 2名

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校気味中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導している。また、卒業後の進路指導についても力を入れている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、中学校時に不登校であった生徒、他の高等学校からの転入学生、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行い、将来のために次のステージへつなげる。

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

①評価方法

各重点項目に対して、1点から3点で評価する。

良い …… 3点 普通 …… 2点 悪い …… 1点
 どちらでもない …… 評価しない

②評価対象者

本校通信制専任教職員 9名

(1)学習指導 平均 2.9 (昨年度2.7)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。	3.0	2.8
② 生徒の基礎学力向上に努める。	2.8	2.3
③ 試験による不正行為をなくす。	3.0	2.9
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。	3.0	2.8
⑤ 「よくわかる授業」の実践に心掛ける。	3.0	2.5
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、居眠り)	2.8	2.7
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。	2.7	2.5
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。	2.7	2.5
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。	2.7	2.5
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。	3.0	3.0

(考察)

・前年度に比べるとかなり評価が高くなっているのは各先生方が工夫をしてわかりやすい授業に心がけた現れである。しかし、学力の違う生徒を同じ授業で行うのはかなり無理がある。3年前から取り入れた午後コース授業により受講の環境もよくなり落ち着いた授業が多く、生徒の出席率も向上している。これで満足するのではなくさらに学力をつける授業を今後も心掛けたい。
 連携校のスクーリングについても年間3日間だが、少しでも受講生徒が満足するように教材を新しくした。

【課題】

- ・学力差が大きいため、全員の生徒を理解させるための工夫をする。
- ・授業中のマナー指導を徹底させる。
- ・技能連携校スクーリングの生徒満足度を高める工夫をする。
- ・総合学習の内容を充実させ、進路に結びつけるようにする。
- ・不登校生徒に対する指導および保護者との連絡、スクールカウンセラーによるカウンセリングの実施をする。

【改善方策】

- ・不登校ぎみの生徒に対する指導、カウンセリング、保護者への連絡徹底。
- ・授業レポート作成の段階で基本的な内容を精選し、できる限り生徒の学力が向上するように工夫する。
- ・視聴覚教材(パワーポイント、動画など)や実験を授業に取り入れ、わかりやすい授業に心がける。
- ・学力向上の補助をするため学び直し講座、進学講座を実施する。
- ・授業中のマナーについては現場で注意を与え、再三の注意指導については特別指導を行う。
- ・技能連携校スクーリングを視聴覚授業だけではなく本校教員による授業も行う。

(2)生活指導

平均 2.5 (昨年度2.5)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 登下校時のマナーはしっかりしている。	2.2	1.9
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。	2.3	2.2
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。	2.5	2.8
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。	2.2	2.5
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。	2.2	2.3
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。	3.0	2.9
⑦ 健康診断通知配付と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配付する。	2.8	2.7

(考察)

- ・全体の評価は昨年並みではあるが校外における生徒のマナーはまだままであり、周辺住民にご迷惑をかけている場合があるようである。人が見ていないところでのマナーやモラル教育をしっかりと指導する必要がある。また、本年度より歯科検査も実施し生徒の健康面のチェックも強化している。

【課題】

- ・駅、コンビニなどを巡回して本校生徒がバイク、自転車を駐輪しないように指導する。
- ・駅や学校周辺の通学路で喫煙行為がないように、その巡視と指導をする。
- ・成人の生徒も在籍するため交通安全指導も行う必要がある。
- ・本校の駐車場に自動車等の駐車許可を得ている生徒に対し交通安全指導を必ず実施する。

【改善方策】

- ・登下校指導、巡視を強化し、現場で注意指導する。
- ・違反生徒には保護者来校をお願いをして指導する。また、再三の指導に従えない生徒は退学処分とする。
- ・特別活動等でマナー、ルールについての生活指導を行う。
- ・健康診断を行い再検査が必要な生徒は保護者へ文書でお願いする。

(3)進路指導

平均 2.5 (昨年度2.4)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 進学率を高める努力をしている。	2.5	2.6
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。	2.5	2.3
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。	2.3	2.2
④ 担任が自クラスの進路を把握する。	2.8	2.7
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。	2.7	2.4
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。	2.8	2.6
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。	2.5	2.3

(考察)

・3年前より進路指導を強化することを先生方をお願いしてきた成果が現れてきたようで、順調に生徒の認識がかわり、早い時期から卒業後の進路を考え行動する生徒が多くなってきている。しかし、まだまだ卒業できればよいと考える生徒がいるため3年の担任は苦勞している。そのため進学率はのびない。また、そのなかで姉妹校進学を推奨し徐々に成果が出てきている。

【課題】

- ・担任が生徒に進路指導をする時間がなかなかとれない。
- ・3年生になって転入する生徒もいるので進路活動に入る時期がかなり遅い生徒がいる。
- ・進学、就職希望があっても目標が決められない生徒が多い。
- ・就職で内定しても辞退する生徒がいると、今後の企業との関係が悪くなる。
- ・進路に対して真剣味がなく努力しない生徒もいる。

【改善方策】

- ・各種説明会(進学、姉妹校、就職説明会など)に早い時期に積極的に参加させる。
- ・1、2年次より体験学習などに積極的に参加させ、進路選択の幅を広げる。
- ・姉妹校説明会や愛産大単位取得コースを利用し内部進学率を高める。
- ・早い時期に進路調査をもとに個人面談を実施する。
- ・就職・進学の合格率を高めるために模擬面接、小論文指導を行う。
- ・学校斡旋で就職するときは必ず辞退しないように保護者にも指導説明する。

(4)生徒相談

平均 2.6 (昨年度2.2)

重 点 目 標	教員評価	
	H 30	H 29
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。	2.7	2.5
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。(家庭との連絡を密にする)	2.7	2.6
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。	2.3	1.6
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。	2.7	2.0

(考察)

・午後コースの実施とともに、以前よりも前籍校で不登校であった生徒が多く入学している。ほとんどの生徒が、入学する際は本校では頑張ってお出校する気持ちで努力しているようだが、以前の習慣が出てしまい不登校になる生徒がいるのが現実である。そのような生徒にどのようなサポートをするのが重要になっている。また、社会との関係を閉ざし気味な生徒を通学させ、次のステージに行けるようにサポートすることも手探り状態である。

【課題】

- ・教員が生徒の状況をできるだけ早く把握、理解することが重要である。
- ・不登校気味な生徒は午後コース(少人数クラス)を受講できるようにする。
- ・午後コースには女子生徒が増加傾向である。
- ・家庭との連携を密にとり、生徒が出校できる環境をつくる。
- ・午後コースで慣れた生徒は午前コースを受講するように指導する。

【改善方策】

- ・女子生徒が増加傾向にあるので、専任女子教員を配置し、女子生徒が相談にのりやすい環境をつくる。
- ・常駐スクールカウンセラーをお願いし、保護者も相談できる体制にする。
- ・障害者手帳を持っている生徒もいるので、保護者との連絡を密にする。
- ・声かけをして話す機会を多くし、教員は信頼を得るように努力する。
- ・不登校に関する講習会に積極的に参加して、教員も生徒対応のスキルを高める。

(5) 生徒募集

平均 2.9 (昨年度2.9)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。	3.0	3.0
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。	3.0	3.0
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。	3.0	3.0
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。	2.7	2.9
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。	2.8	2.8
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。	2.8	2.9
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。	2.8	2.8

(考察)

・午後コース、体験学習、学び直し講座、進学講座等の導入により、入学者は徐々に増加傾向である。ほとんどの重点目標で昨年並みかそれ以上の評価をしているが、これに満足することなく今後も生徒のために必要な改革を進める。ただ、今後入学者が増加する予想であるならば、教室や教員数も検討する必要がある。

【課題】

- ・新たな教育内容を検討する。
- ・狭域制であるので地元の中学校、高校に本校の教育を理解していただく。
- ・校外の学校説明会への効果的な参加を検討する。
- ・新たな広報媒体を検討する。
- ・入学者増加にともなう受け入れ体制の検討をする。

【改善方策】

- ・入学生徒の前籍校に生徒の状況を説明し理解をしていただく。
- ・入学した生徒が何を望んでいるかをリサーチして改革をすすめる。
- ・転入学生徒の前籍校に「学校説明会」開催情報を適宜流す。
- ・本校の教育内容、教育方針などをPRし、広域制通信制高校との違いを理解して頂く。
- ・入学生増加に対応する教室、講座数、教員数、学則定員の検討をする。

(6) 総務

平均 2.5 (昨年度2.6)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① ホームページの更新は時宜を得て行う。	2.3	2.1
② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。	2.2	2.6
③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。	2.7	2.9
④ 学校説明会の案内を効果的に配付する。	3.0	2.6

(考察)

・全体評価として昨年度より悪くなってしまった。目の前の生徒対応に追われてどうしても後回しにしてしまった結果である。ホームページリニューアル時には目新しいため更新等がリアルタイムできていたが、やはり忙しいを理由に遅れがちになってしまった。しかし、検索する側にとっては新しい情報が知りたいのが当然である。

【課題】

- ・ホームページに常に新しい情報を掲載しアクセス数の向上につとめる。
- ・生徒に対する「メール発信システム」の情報が遅れてしまうことがないようにする。
- ・全日制の中学校ネットワークを利用させて頂き学校説明会の案内等を配布する。
- ・生徒は毎日登校しないので生徒への連絡方策を検討する。

【改善方策】

- ・web を利用した新しい広報を検討する。
- ・Google、yahoo の検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。
- ・ホームページの内容(新しい情報の更新)を全教員でリアルタイムに更新する。
- ・中学校へ訪問し、不登校気味な生徒に直接説明できる機会をお願いする。

(7)校務

平均 2.4 (昨年度2.4)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 校外における美化活動を行っている。	2.3	2.2
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。		
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。	2.3	2.3
④ 日直を中心とした校内整備を行う。	2.5	2.4
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。	2.3	2.5

(考察)

・評価は昨年並みで、年間予定に従って校舎内外の美化修繕を行った。特に今年度は木の伐採も職員により行い景観がよくなった。今後は校舎の老朽化に対する対応を計画的に行う必要がある。また、先生方も心がけているが省エネの推進はあまりできていない。

【課題】

- ・連携校スクーリングで単位制校舎を利用する機会が増えているので教室機器の整備が必要である。
- ・校舎外壁等老朽化がはげしく、費用の予算化が必要である。
- ・校内の破損箇所や機器の故障が多く、修理箇所も増加している。
- ・教員数が少ないため美化清掃や校内整備に時間が必要である。

【改善方策】

- ・長期計画により校舎外壁塗り替えを実施する。
- ・教室担当者が責任をもって冷暖房機器や照明器具の省エネに努める。
- ・生徒にゴミ等を出さないように飲食禁止を徹底させる。
- ・教室等の担当教員を決め、自クラスの美化活動、節電を実践する。
- ・授業がない時期を利用して職員自ら修繕できることを行う。

(8) 事務関係

平均 2.5 (昨年度2.6)

重点目標	教員評価	
	H30	H29
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。	2.3	2.3
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。	2.3	2.4
③ 電話等の対応を適切に行う。	2.8	2.6
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。	2.8	3.0
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。	2.2	2.6

(考察)

- ・昨年度よりも評価がさらに悪くなった。3年前より教務の効率化(電算化)を図りながら事務処理を行っているが、連携校も含めると在籍数1600名程度の生徒の管理をしているので2名の事務職員(1名派遣)では不十分である。また、現在、本校の生徒も増加傾向にあるので教務事務も増えている。教務データの電算化は進めているが、まだ教務データや指導要録等の書類は手書きであり、在籍証明、成績証明等の書類発行は非常に効率が悪い。早急に改善する必要がある。

【課題】

- ・多忙なため事務の仕事を教員が行うこともあり、残業ゼロも目指すのが難しい。
- ・教務データの一元化をすすめているがまだ完成していない。
- ・連携校と単位制の生徒の両方を教務管理しなければならないので煩雑になる。
- ・事務責任者は単位制校舎に常駐していない。

【改善方策】

- ・事務職員の増員をお願いする。
- ・連携校7校(在籍1300名程度)の事務処理と本校単位制(在籍300名程度)事務処理を分けて行う。
- ・過去の卒業生データの電子化には膨大な時間がかかるため、現状のままで事務処理を行い、現在のデータは電算化して事務処理の効率化を図る。
- ・電話等の対応はできる限り教員が行う。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・学び直し講座の新設(国語、数学、英語)3講座の実施
- ・進学講座の新設(国語、数学、英語、日本史、現代社会、生物、化学)7講座の実施
- ・学割定期券購入(名鉄, JR、愛環)可能 ※週2日以上通学する生徒のみ
- ・スクールカウンセラーによるカウンセリング実施
- ・健康診断と共に歯科検診の実施
- ・各教室モニターの増設
- ・中学校訪問実施(三河地区)

V 来年度の具体的な取り組み予定

- ・単位制校舎によるカウンセリング実施(スクールカウンセリング常駐)
- ・体験学習講座新設(自衛隊体験等)
- ・単位制校舎による連携校スクーリング実施
- ・連携校スクーリングのライブ授業実施
- ・校外学校説明会の実施回数増加
- ・進学のための奨学金制度説明会の実施

VI 重点目標の達成に対する考察

昨年度と同様にほとんどの項目で現状またはそれ以上の評価であったが、地道に努力すべき事務関係やホームページの更新などが遅れている状態である。今後は事務処理関係を仕事を分担して遅れることなく実施していきたい。

4年前から生徒募集のため新しい改革を多く計画実施してきたが、今まで改善改革した内容をもう一度検証しさらに修正改善すべきところを見つけていきたい。同時に新しい改革についても実施していかなければならない。

将来に向けて、生徒が満足する教育内容をさらに充実することが本校が地域住民に望まれることであるので、更なる教育内容の充実に努めたい。

VII 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は95名の生徒からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果参照。全体の結果としてはほとんどの生徒が満足しているように思われるが、特に本校は転学生が70%程度在籍しているので、本校を卒業することだけを目標にしている生徒に対してそれ以上望まない傾向がある。しかし、どんな生徒であっても自分の将来については真剣に考えているのでそのサポートをしていきたい。

Ⅷ 保護者アンケート結果の総合考察

本年度は105名の保護者からアンケートを実施した。ほとんどの項目については満足していた。生徒に対して卒業だけを考えている無関心な保護者と、全日制の生徒と同じように期待している保護者に2極化している。どのような生徒、保護者に対しても三者面談を繰り返し生徒の将来を考える必要がある。また、保護者の意見から本年度より学び直し講座・進学講座を開講した。さらに保護者対象のカウンセリングもスクールカウンセラーにお願いして実施した。

Ⅸ 今後の方向性

本校単位制

本校はいろいろな生徒のニーズに対応した学校を目指している。今後も通学型の通信制高等学校として、通学しなくてもよいことをPRする広域制通信制高等学校との差別化を図り、通信制でありながら通学し受講し高校資格を取得だけでなく、生徒に付加価値をつけて社会へ大学へ行かせることを目標とする。

中学校、高校時代で不登校、高校生活をいろいろな理由で継続できない、経済的に厳しい、スポーツ等で毎日通学できないなど様々な理由の生徒がいる。将来のために、遅れた勉強を取り戻したいと考える生徒に学び直し講座、また、進学をめざしたい生徒に進学講座を本年度より開講した。

今後は進学だけではなく、将来のために就職に直結するような講座を順次開講し、生徒にさらに付加価値をつけて次のステージへ行かせたい。そのためには教室の増設、教員数の増員も考えて行きたい。

開講例 英会話・留学講座 電気工事士資格取得講座 情報処理資格取得講座
危険物取扱資格取得講座 公務員試験合格講座 メイク・ネイル講座など

将来的には不登校生徒の受け皿だけではなく、生徒が学びたいことを学べる新しい形式の高等学校にしていきたいと考える。

技能連携校(7校)

現在のところスクーリングの内容は視聴覚授業が中心で生徒の学力アップになっているかどうかは疑わしいところがある。来年度より対面授業(教員によるライブ授業)を行い、将来的にはすべて対面授業を行って行きたい。そのために来年度よりスクーリングを一部単位制校舎で行う。

以上